

11・元気メール (No.102) 11クラブ 2020.12.15

武藤和義 2020.12.4 山口 進 様

思いがけなくメールをいただき、嬉しく思っています。関西イレブンが発案された「11・元気メール」、コロナ禍での自粛生活に潤いを与えてくれましたが、提案するだけでも勇気を要したことでしょう。

さらに、これを継続するためには多くの方の支持と協力が必要だと思います。

全体を取りまとめておられる渋谷さんの実行力には頭が下がります。

毎回コメントされている浦さんの役割も、投稿者に勇気を与えていただき、今では欠かすことはできません。

山口さんが棋力向上の勉強法をたずねられていますので、今私が大切だと思っていることを記します。

1、山口さんの勉強方法から、囲碁の基本の技術は身につけられていると思います。

プロの棋譜を並べる、教本を読む、詰碁を解く、テレビ囲碁対局を観戦する、などいい勉強方法だと思います。

四段の棋力があれば、部分的なことはわかっていて、読む力もあるはずです。

2、これからは全局をどう打ち進めるかを実戦を通して試行錯誤しながら、合理的で自然な打ち方に改良していくことだと思います。

私は序盤、中盤から計数的に大きいかどうか(ヨセの考え方)を基準に着手を選ぶことが大切だと思っています。

アマは相当強い人でも打ち方に問題があるのですが、自分でそれに気付くのは結構難しいです。

しかし、他人に指摘してもらうよりも自分で気付き、少しでも直す努力をすることが棋力向上につながると思います。

大会でなければ、対局は勝負よりも、いい打ち方を探求することを目的にしたほうがいいと思います。

全局的には、着手ごとに次のようなことを心がけ、今どこから局面を展開させるか考えることが大切です。

① 自分の地模様が広がるほうから打つ。攻めながら自分の地模様に相手の石を追わない。取れることを読みきった場合は別です。攻めは取る目的でな

く、自分は地模様が増える価値の高い石を打ち、相手に逃げるだけの価値の低い石を打たせるのがいいのです。

- ② 自分の弱い石から動く。強い石の側の地は小さい。弱い石の側の地は大きい。
- ③ 相手の弱い石が二つあれば裂いて打つ。相手の丈夫な石は裂かない。
- ④ 相手の弱い石と強い石があれば裂くよりも、自分が得をするように追って、繋がせるように打つ。相手はダメ場を打つことになる。
- ⑤ 自分の強い石から打つのは大きな地模様ができる場合。
- ⑥ 相手の強い地模様は深く荒らさず、浅く消して、消した石の背中側にいくらかの地ができればよい。AI はこれが得意です。
相手の広すぎる模様は根こそぎ荒らす。ただし、ここから起こる戦いが、自分の弱い石に影響を及ぼすことを考慮する必要があり、タイミングが大切。
- ⑦ 常に今どこから、どういう風に局面を運んでいくのが計数的に得か考える。
- ⑧ 今後活躍しないような石は動かない。捨ててもよい。助けるのはヨセの時。
- ⑨ 自然に合理的に打っていれば、勝ちに行くのではなく、相場の手でいいのです。相手が不合理な打ち方をして、勝たせてくれます。

3、AI との実戦対局が棋力向上に大いに役立つと思います。AI「天頂の囲碁」7 はプロ並みの棋力です。市ヶ谷の日本棋院で1万円程度で入手できます。

私は外出の用事がない日は AI と4局対局しています。三子局、二子局、先番逆コミ6目半、白番19目半コミもらい、の4局です。

ボクシングのスパarringみたいな対局です。結構楽しいです。

「待った」ありで対局します。途中でつぶれたときは、原因を考え何手も戻って再開します。原因追求が勉強になるのです。

AI の棋力は指定により加減できます。しかし、なるべく九段を指定したほうが

いいでしょう。数多く対局すれば頭脳の筋力がつき、読みが速く正確度が増します。読みの速さと正確度は碁の強さでもあります。

置碁でも互先で沢山のコミをもらってもいいです。

互先で打ち、負けの目数を減らしていくようにすれば、上達と自分の着手の改良の状況の「見える化」になります。

さらに、この AI には検討機能があり、あとで反省会もできます。他人と対局した場合も棋譜があれば AI で検討できます。

碁敵の得意な戦法を破る方法も示してくれます。

以上私が薦めたい棋力向上の方法です。

武藤 和義